

浦添市剣道連盟

1 設立年月日

昭和48年（1973年）8月

2 戦後の剣道復活

第二次大戦を経た沖縄で、生き残った剣道人は僅か一握りで、しかも沖縄中が食うか食わずかの生活を余儀なくされ、剣道どころではなかった。そういう中であって、故石原昌直氏と台湾から引き揚げてきた故松川久仁男氏の両名が中心となり、10名足らずの人員で昭和26年8月に剣道同好会を結成し沖縄の剣道復活を図った。剣道具や道場もすべて灰燼に帰した当時に故松川氏は本土の剣友から密かに防具を取り寄せた。

昭和27年10月に全日本剣道連盟が結成され、剣道の復活が活発に開始されたため、翌年の昭和28年11月には沖縄剣道連盟が結成され、同時に全日本剣道連盟にも加盟し、会長に故松川久仁男氏が選出されたが当時の会員は、たったの39名であったという。連盟では、翌年の4月に第1回職域剣道大会を開催し、5月には京都の審査会に大学応募し、ついでに都道府県大会にも初参加したのである。松川久仁男、友寄景三、豊里友孝（仲西の豊武館館長）、志村暁市、山城得清、下地恵栄、岸本巖の各氏である。翌年にも石原昌直、古堅宗煌、山端松栄、仲井間憲孝、幸地都善氏らが京都審査を兼ねて出掛けた。その結果、高段者も大幅に増えて沖縄の剣道はその頃から隆盛の兆しを見せ、昭和30年11月の第10回国民体育大会に参加し、剣道界の実質的な本土復帰を果たしたのである。



生き残った那覇市の武徳殿。今の県警本部後方の建物
写真提供：沖縄県剣道連盟

3 設立の経緯

浦添市剣道連盟は、沖縄県剣道連盟の財団法人化に伴い、昭和48年8月、仲西中学校において総会を開き結成された。初代会長に奥平博一氏を選任して活動を開始し、結成時の役員への献身的な努力が実り、今日の浦添市剣道の隆盛の基が築かれた。結成当時、有段者40数名が浦添市に在住していることが判明したが、その半数が他の市郡に登録をされており、浦添市剣道連盟に登録出来る者は、わずか25名程度であった。しかも、その殆どが学生で初段や二段といった低段位者であった。市剣連では重点目標として底辺の拡大と剣道のレベルアップに力を注いだ。

(1) 少年剣道教室の開催

各市郡とも連盟結成と同時に少年剣道クラブやスポーツ少年団を競って結成して活動していた。

浦添市も昭和50年8月ごろ、理事の下地恒武氏と新進気鋭の松田進氏がニュータウンの公民館で10数名の少年を集めて少年剣道教室を開いた。しかし、参加者が増え稽古が出来なくなったため、市教育委員会に依頼、浦添小学校の体育館を利用させて貰った。その後も子供たちの数は増え、80名を越すまでになった。

(2) 浦添少年剣道クラブの結成

昭和55年4月、名称を「剣道教室」から、「浦

添少年剣道クラブ」と改める。世話役を宮城茂男・道子ご夫妻が引き受けてくれた。当時、浦添市には武道場が無く、最も苦勞したのが稽古場所の確保であった。学校の体育館利用は、学校行事が優先されるため、行事の度に稽古場探しに走り回ったことから同夫妻はクラブを支える「父母の会」の必要性を痛感し、昭和60年1月に浦添少年剣道クラブ「父母の会」を結成した。初代会長に山城芳昭氏を選任した。

(3) 浦添警察署の開署

他市郡の少年剣道クラブは警察署の武道場を本拠地として稽古していた。昭和60年4月、浦添警察署の開署と同時に山城会長は、少年剣道クラブの現状を浦添警察署側に訴え、武道場の使用を要請した。当時の幸地行雄署長は要請に理解を示し、快く武道場の使用を許可してくれた。本拠地を確保した浦添少年剣道クラブは、以後、充実した環境の下に活動を続け、県内の強豪チームに成長した。

4 連盟結成後のあゆみ

第26回県民体育大会（昭和48年11月）に初出場するが予選リーグ突破ならず第27回大会から、第32回大会まで不出場。以後は、毎年出場を果たす。

昭和48年、49年富川杯大会

女子の部 優勝 又吉ひと美（浦添高校）

昭和49年県中学校剣道大会

男子団体 優勝 浦添中

準優勝 神森中

昭和50年8月 少年剣道教室開催

浦添市剣道連盟理事の下地垣武氏と松田進氏がニュータウン公民館で少年剣道教室開催。

少年十数名参加

昭和50年11月富川杯大会

一般男子四段以下の部 優勝

松田進（浦添公民館）

昭和52年7月 浦添市中学校対抗剣大会優勝

仲西中学 第2位 浦添中学

昭和55年4月 ニュウタウン剣道教室を浦添少年剣道クラブに名称変更し本格的なクラブとしてスタートする。

昭和52年7月 県中学大会

男子団体優勝 仲西中

昭和56年7月第1回浦添市少年剣道大会を開催。

同年12月浦添市剣道連盟主催の級位審査を初めて浦添市で実施する。（年1回）受審者120名



浦添市の剣道級位審査 昭和56年から開催し、同60年からは2回実施 6月と12月

昭和57年 県中学大会

男子・女子 優勝 仲西中学

男子は全国大会に出場。

富川杯大会 優勝 同中学（平良尚子）

昭和58年7月



第12回全国中学校選抜剣道大会出場 井上実監督と仲西中学校男子メンバー 日本武道館にて

奥平博一氏の後任に友利徹雄氏が浦添市剣道連盟会長に選任される。

昭和59年 富川杯大会

高校男子 優勝 島袋昌明（太平高校）

昭和59年1月29日（財）沖縄県剣道連盟創立30周年で浦添少年剣道クラブが優秀団体として表彰される。

昭和60年4月浦添警察署の開署

浦添少年剣道クラブは同署の武道場を稽古場として使用する。同年から級位審査会を年2回実施する。(6月と12月)

昭和62年 富川杯大会

小学生の部 優勝 下地博之(仲西小)

昭和63年8月第10回沖縄県幼少年剣道錬成大会

第1部 第三位 浦添市少年剣道クラブ

平成元年11月第41回県民体育大会で浦添市チーム準優勝、同年5月(財)沖縄県剣道連盟創立35周年祝賀会で迎里安雄、松田進氏が功労賞を受賞した。

平成2年11月(第42回)県民体育大会

浦添市チーム 第3位。

平成4年4月友利徹雄会長の後任に迎里安雄が選任され現在に至る。浦添少年剣道クラブは、大道塾大会、県警察少年柔剣道大会、県幼少年剣道錬成大会で優勝。富川杯大会小学生の部では、同クラブの仲宗根広貴が優勝、友利浩介が準優勝を果たす。

平成5年8月蒲郡市剣道連盟が来沖

同連盟との交流大会を市民体育館で開催する。

同年の富川杯大会

女子一般の部 優勝 富本貴江

高校男子の部 優勝 下地博之

(両名とも浦添市剣道連盟)

平成5年全日本女子剣道選手権大会

富本貴江選手がベスト8入りを果たす。

平成6年8月浦添市剣道連盟蒲郡市訪問

迎里安雄団長以下41名(大人12名子供30名)



迎里安雄団長以下41人が蒲郡市剣道連盟との交流鈴木蒲郡市長と剣道連盟を表敬訪問

平成6年富川杯大会

女子の部 優勝 富本貴江

同選手は全日本女子選手権大会に2年連続出場を果たす。

大学男子の部 優勝 下地博之

昭和薬科大付属中学女子団体は県の新人大会及び夏期大会も優勝し九州・全国大会に出場。

平成6年県民体育大会

浦添市チーム 第3位

平成7年8月27~28日浦添市・蒲郡市剣道交流

大会及び交流会実施。富田孝夫団長以下32名が浦添市を訪問し剣道交流を図る。浦添中学校男子団体は県の新人大会及び夏期大会で優勝し九州・全国大会に出場、同じく昭和薬科大付属中学校も女子団体に夏期大会で二連覇し九州・全国大会に出場。

平成8年

浦添少年剣道クラブは県幼少年剣道錬成大会、大道塾大会、スポーツ少年団九州派遣大会で優勝。浦添中学校男子団体は県新人大会で優勝し夏期大会で準優勝。富川杯大会で中学男子の部で港川中学の比嘉勇太が優勝し、一般女子の部でも富本貴江が優勝する。

平成9年

浦添中学、男女共に県中学剣道大会で優勝し全国大会に出場。県中学新人大会で男子優勝。女子団体では昭和薬科大付属中学が優勝。浦添少年剣道クラブは県代表として全国選抜少年剣道錬成大会(水戸市東武館)に出場し殊勲賞に輝く。全国スポーツ少年団県予選大会で浦添市少年剣道クラブが優勝。富川杯選手権大会で大学男子の部で下地博之が優勝し、女子一般の部で富本貴江が優勝。

平成10年4月 浦添市武道場完成

10月に同武道場の落成を記念し大会を開催する。浦添少年剣道クラブは全国スポーツ少年団剣道交流大会(高松市)と全国警察少年柔剣道大会に出場、浦添中学校は県夏期大会で男子が優勝。女子も準優勝し男子は全国大会

に出場。富川杯大会小学校女子の部で沢岷小学校の宮国亜美が優勝。中学女子の部で浦添中学校の照屋幸代が優勝。高校の部では昭和薬科大付属高校の新垣久と浦崎美奈子が優勝する。

平成11年

県民体育大会 浦添市チーム 第3位

スポーツ少年団九州派遣大会

沢岷小学校剣道クラブが優勝し九州大会に出場。

スポーツ少年団全国派遣大会

浦添少年剣道クラブが優勝し全国大会（札幌市）に出場。

浦添中学校は県夏期大会団体で男女とも優勝し全国大会に出場。同中は富川杯大会でも男子の部で平良祐輔・女子の部で照屋幸代が揃って優勝。高校男子の部では昭和薬科高校の與座喜一郎が優勝。一般男子四段以下の部で有馬勇司選手が優勝。

平成12年スポーツ少年団九州派遣大会

沢岷小剣道クラブが優勝し九州大会に出場。

浦添中学は団体で男女共に県中学剣道大会に優勝し全国大会に連続出場を果たす。新人大大会でも男女ともに優勝。

富川杯大会

小学生女子の部 優勝 上江列真衣（浦添少年剣道クラブ）

平成13年

県民体育大会

浦添チーム 初優勝を果たす。



念願の初優勝を果たす。前列右から監督の迎里安雄、大将崎浜秀樹、副将田畑武正、中堅大嶺平八郎、後列右から澤村卓巳、次鋒有馬勇司、先鋒池間慶明、補欠下地博之の各選手

大米杯争奪県幼少年大会

第2部 優勝 沢岷小学校剣道クラブ

スポーツ少年団全国派遣大会

浦添少年剣道クラブが優勝し翌年3月全国大会（岐阜県大垣市）に出場。

浦添中学は団体で男女ともに準優勝。新人大大会で女子団体が優勝。

平成14年

大米杯争奪県幼少年大会

浦添少年剣道クラブは第2部で準優勝（3年連続）、スポーツ少年団全国派遣の部で優勝。本年（2003年）の3月山形県で行なわれた全国大会に出場。

5 現連盟役員

会 長	迎里安雄
副 会 長	平良盛建
理 事	崎浜秀樹 澤村卓巳 松岡宏幸 国吉斉 上原睦人 宮国貴子 田畑武正
幹 事	大嶺平八郎 西原有美子 宮城茂朗 下地博之 宮里竜太
顧 問	友利徹雄 楚南幸治
理 事 長	崎浜秀樹 事務長 澤村卓巳
書 記	宮国貴子 会 計 西原有美子



浦添市剣道連盟の役員、会長以下、県内で一番若い役員達が組織を支えている。

歴代役員紹介



初代会長
奥平博一

(S48年～S58年)

初代副会長
仲西敏一



第2代
友利徹雄

(S59年～H3年)

第2代
楚南幸治



第3代
迎里安雄

(H4年～現在)

第3代
平良盛健

浦添市剣道連盟会員（有段者）の概数

(平成13年1月現在)

剣道	居合道	合計	両道取得
73	31	204	5

6 市内小中高生の活躍

浦添少年剣道クラブ

昭和50年にニュータウンの公民館で十数人でスタートしたが、指導者や父母の会の熱意により着実に発展を遂げて、今日では色々な大会で大活躍し、県内に「浦添少年剣道クラブ」の名が知れ渡るまでになっている。クラブのモットーは「残心」と「継続は力なり」である。

部員数 52名
稽古場所 浦添警察署武道場と浦添市武道場
稽古日 毎週月水土16:00～20:00
代表者 迎里安雄
指導者 迎里安雄 照屋昇憲 宮国貴子
大嶺平八郎 平良隆 仲村浩
山里功 山里美紀子

これまでの活躍

- (1) 幼少年剣道大会1部優勝（平成4・8年度）2部準優勝（平成8・10・13・14年）
- (2) スポーツ少年団剣道交流大会九州派遣優勝（平成8年度）
全国派遣優勝（平成8・平成13・14年）
- (3) 警察大会優勝（平成4・10年度）準優勝

（平成7・12年度）

- (4) 大道塾大会優勝（平成4・8年度）準優勝（平成3・8年度）
- (5) 志道館大会優勝（平成8年度）準優勝（平成3・8年度）



浦添少年剣道クラブ 平成14年度県幼少年剣道錬成大会2部で準優勝を果たす

沢岷小学校剣道クラブ

平成3年4月に井上実校長（剣道七段教士）が赴任し、同校の教育理念である「知・徳・体」を実現させるための一環として剣道クラブを結成する。平成5年の転勤後は、国吉斉先生が引継ぎ、県内の強豪チームに飛躍させる。

部員数 30名
稽古場所 沢岷小学校体育館
稽古日 月火木17:00～20:00
代表者 国吉斉
指導者 国吉斉 上原睦人 与那嶺徳雄
宮城満

これまでの活躍

- (1) 幼少年剣道大会
1部でAチーム第3位（平成12年度）
2部でAチーム優勝（平成13年度）
- (2) スポーツ少年団剣道交流大会九州派遣優勝（平成12、13年度）
- (3) 志道館大会小学生2部第3位（平成12年度）
- (4) 武道館大会
Aチーム第3位（平成13年度）



沢岷小学校剣道クラブ 平成13年に創立10周年を迎え、益々飛躍が期待される

浦添中学校剣道クラブ

平成3年、新進気鋭の澤村卓巳氏（市剣連の理事）は、浦添少年剣道クラブの指導者・迎里安雄（現在市連盟会長）から休部状態の同中学校の剣道部コーチを再三依頼され、三顧の礼とやらでコーチをひきうけて貰い浦添中学校の剣道部が再スタート。同中学校の剣道部は、澤村コーチの就任に伴い、浦添少年剣道クラブで実績を取めた将来性のある子供たちが多数入部するようになり、澤村コーチの情熱的な指導の下、たちまち県内一のチームへ成長を遂げ、現在は常に全国制覇を夢見て日夜稽古に励んでいる。これは、コーチの指導力、部員たちの向上心、それに父母の会の結束力がひとつとなって実現できたのである。同中学のモットーは「常に挑戦」「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」である。

顧問 神森誠司 澤村卓巳

部員数 30名

これまでの主な活躍

- (1) 県中学校夏期剣道大会男子団体優勝（平成7・9・11・12年度）
女子団体優勝（平成9・11・12年度）
男子団体準優勝（平成8・13年度）
女子団体準優勝（平成10・13年度）
- (2) 県中学校新人剣道大会
男子団体優勝（平成7・8・9・10・11・12年度）
女子団体優勝（平成12・13年度）
- (3) 全国中学校剣道大会

男子団体（平成7・9・10・11・12年度）

（平成10・12年度ベスト16）

女子団体（平成9・11・12年度）

(4) 九州中学校剣道大会

男子団体（平成7・8・9・10・11・12・13年度）

女子団体（平成9・10・11・12・13年）

(5) 阿久根市長旗争奪全国中学選抜大会

男子団体（平成7・8・11・12・13年度）

（平成10年度ベスト16進出）

女子団体（平成10・12・13年度）（平成11・

13年度ベスト8進出）

昭和薬科大学付属中学校・同高等学校の剣道クラブ

平成3年、石川清正氏が同校の教諭として採用されたのに伴い同校の本格的な剣道クラブが発足。奇しくもライバルとなる澤村コーチと同時期に中学校の剣道指導を始め、以後、同校の剣道部は浦添中学校と共に絶えず県内の剣道界をリードし続ける存在になる。

モットーは「剣道即私生活」「専一集注」を掲げ進学校でありながらもスポーツ面にも力を入れ「文武両道」の道を歩んでいる。

監督 石川清正

部員数 25名

これまでの主な活躍

- (1) 県中学校夏期剣道大会
女子団体優勝（平成6・7年度）
- (2) 県中学校新人剣道大会
女子団体優勝（平成6・7年度）
男子団体第3位（平成12年度）
- (3) 全国中学校剣道大会出場
女子団体（平成6・7年度）
- (4) 九州中学校剣道大会出場
女子団体出場（平成6・7・9年度）
- (5) 九州中学校剣道大会

昭和薬科大学付属高等学校剣道クラブ

監督 石川清正

部員数 20名

これまでの主な活躍

- (1) 県高等学校剣道競技大会
男子団体第3位(平成12年度)
女子団体第3位(平成12年度)
- (2) 県高等学校新人剣道大会
女子団体第3位(平成12年)
第2位(平成13年度)
- (3) 県高等学校冬季剣道大会
女子団体第3位(平成12年度)・準優勝(平成13年度)
- (4) 志道館大会
男子団体準優勝(平成12年度)
- (5) 全国高等学校選抜剣道大会
男子団体出場(平成8年度) 女子団体出場
(平成10・11年度)
- (6) 九州高等学校剣道大会
男子団体出場(平成9年度) 女子団体出場
(平成8年度)
- (7) 九州高等学校選抜剣道大会
男子団体出場(平成8・9・10年度) 女子
団体出場(平成5・6・8・9・10・11・
12年度)

浦添高等学校剣道クラブ

過去に実力のある部員が多数いたにもにもかかわらず、これと言った成績を残せずに関係者一同をいつも悶々とさせていた。

平成12年大城均先生が同校に赴任して監督を引受けてから、同高校の剣道部の姿勢が端的に変化し、大城監督に厳しく鍛えられ着実に実力付け、女子チームは県内制覇まであと一歩まで近付いている。

同校の剣道部は、部員である前にまず浦添高校の一生徒であることを自覚し、勉学・清掃・HR活動など生徒としての本分を全うし「志操堅固」と文武両道共に努力することをモットーと

している。

監督 大城均

部員数 15名

これまでの主な活躍

- (1) 県高等学校剣道競技大会
女子団体準優勝(平成14年度)
- (2) 九州高等学校剣道大会
女子団体出場(平成14年度)

陽明高等学校剣道クラブ

大平高校時代に少し活躍したが、ここ数年間休部状態にあったが、平成12年に城田亮先生が関係者の強い要望により同校に赴任して以来、剣道部を再生させ僅か3年間で県内制覇まであと一歩のところまで急成長させ、同校の剣道クラブは男女ともに活気に満ち溢れている。

陽明高校剣道部の心得。

- ①部員である前に陽明高校の生徒であることを自覚、責任ある行動をすること。
- ②教育活動における一つの部活動であり何事も常に真摯な態度であること。
- ③部活動(剣道)を通じて、人間としての生き方、あり方を探求すること。

監督 城田亮

部員数 20名

これまでの主な活躍

- (1) 県高等学校剣道競技大会
男子団体準優勝(平成14年度)
- (2) 九州高等学校剣道大会
男子団体出場(平成14年度)
- (3) 県高等学校新人剣道大会
男子団体第3位(平成13年度)
- (4) 県高等学校冬季剣道大会
男子団体第3位(平成13年度)

7 今後の課題と展望

剣道連盟の発足以来、底辺の拡大に力を注いで来た結果、結成して10年頃から浦添市の少年剣道の競技力は飛躍的に向上してきた。数々の

大会で大活躍を続けて、他の市郡から羨ましがられているが、最近陰りが見え黄色信号が点り始めている感がある。最大の原因は、剣道人口の減少が考えられる。剣道はお金が掛かることもあり、不況が長引くにつれ各地で剣道人口の減少が起きている。今後の市剣道連盟の運営は厳さが予想される事から、今一度組織の強化を図ると同時にムダな出費を極力省き健全な財政運営に着手しなければならない。

浦添市剣道連盟会則

第1章 総 則

第1条 本連盟は、浦添市剣道連盟（以下「本連盟」という。）という。

第2条 本連盟は、その事務所を浦添市内に置く。

第2章 目的及び事業

第3条 本連盟は、財団法人沖縄剣道連盟（以下「沖剣連」という。）の加盟団体として、浦添市における剣道市民スポーツの普及奨励を通して心身共に健康な市民育成と明朗な市民生活に寄与することを目的とする。

第4条 本連盟は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 各種剣道大会への選手団の派遣
- (2) 剣道競技会の開催
- (3) 剣道に関する研究、指導並びに講習会の開催
- (4) 級位審査会の開催
- (5) その他本連盟の目的達成に必要な事業

第3章 役 員

第5条 本連盟の会員は剣道を愛好し、又は本連盟の趣旨に賛同して入会した個人又は、法人とする。

第6条 会員は毎年3月末日までに次の各号に定める会費を納入しなければならない。

- (1) 五段以上
- (2) 四段以下の有段者
- (3) 有級者
- (4) その他

第7条 本連盟に入会しようとする者は、入会金 円を添えて入会申込書を提出しなければならない。

第8条 会員が退会するときは、書面でその旨を届けなければならない。

2 死亡し、又は本連盟が解散した場合、会員は退会したものとみなす。

第9条 会員に次の各号の行為があったときは、役員総会において出席者の4分の3以上の同意を得て、これを除名することができる。

- (1) 会費を2年以上納入しないとき。

(2) 本連盟の名誉を毀損し、又は秩序をみだしたとき。

第10条 退会し、又は除名された会員が既に納入した会費、入会金他会員としての義務に基づいて納付した金品はこれを返還しない。

第4章 役員

第11条 本連盟に次の役員を置く。

- (1) 理事長 1名
- (2) 副理事長 1名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 2名

2 理事長及び副理事長は、理事の中から互選により選出するものとし、理事及び監事は総会において選出する。

3 監事は他の役員を兼ねることができない。

第12条 理事長は、本連盟を代表し、連盟の業務を統括する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときはこれを代理する。

3 理事は、連盟の業務を執行する。

4 監事は、連盟の財産及び業務の執行状況を監査する。

第13条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。

3 辞任又は任期満了の場合において、後任者が就任するまでは前任者がその職務を行う。

第14条 その行為にふさわしくない行為をした役員は、総会の議決により解任することができる。

第15条 役員は無報酬とする。ただし、職務の遂行に必要な経費は実費を支給することができる。

第5章 会議

第16条 会議は、総会及び理事会とし総会は通常総会及び臨時総会の2種とする。

第17条 総会は、第5条の会員をもって構成する。

2 理事会は、理事をもって構成する。

第18条 総会は、次の事項を議決する

- (1) 事業計画の決定
- (2) 事業報告の承認
- (3) その他連盟の運営に関する重要な事項

2 理事会は、次の事項を決定する。

- (1) 総会の議決した事項の執行
- (2) 総会に付すべき事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行

第19条 通常総会は、毎年3月及び5月に開催する。

2 臨時総会は、次の各号の場合に開催する。

- (1) 理事会が必要とみとめたとき
- (2) 会員の3文に1以上から会議の目的を記載した書面による開催の請求があったとき。
- (3) 監事が財産の状況又は業務の執行に不正があると認め、その報告のため開催の請求があったとき。

3 理事会は、随時開催する。

第20条 会議は、理事長が招集する。

2 総会を招集するには、会員に対し会議の目的たる事項並びに日時及び場所を示して開会の日の5日前までに文書をもって通知しなければならない。

第21条 総会及び理事会の議長は、いずれも理事長をもって充てる。

第22条 会議は総会においては会員、理事会においては理事の3分の2以上が出席しなければ開催することはできない。

第23条 会議の議決は、この会則に別に定めるもののほか、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。この場合において、議長は会員として議決に加わる権利を有しない。

第24条 やむを得ない理由のため会議に出席できない会員又は理事は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は他

の構成員を代理人として表決を委任することができる。この場合においては、前2条の適用については出席したものとみなす。

第25条 会議の議事については、議事録を作成しなければならない。

第6章 沖剣連評議員及び顧問

第26条 本連盟は、理事会の議決により有段者たる理事の中から沖剣連寄付行為第22条の評議員1名を選出する。

第27条 本連盟に顧問をおくことができる

2 顧問は、理事長が理事会に諮って委嘱し、重要な会務について理事長の諮問に応える。

第28条 第13条の規定は、沖剣連評議員及び顧問に準用する。

第7章 会計

第29条 本連盟の経費は、入会金、会費、事業収入、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

第30条 本連盟の収支予算は、毎会計年度開始前に編成し、事業計画と共に総会の承認を受けなければならない。

第31条 本連盟の収支決算は、年度終了2ヶ月以内にその財産目録及び事業報告と共に監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

第32条 本連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第8章 会則の変更及び解散

第33条 この会則は、総会において会員総数の4分の3以上の同意を得なければ変更することができない。

第34条 本連盟は、会員総数の4分の3以上の同意によって解散することができる。

2 解散後の残金、財産は、総会の議決を経て、本連盟と類似の目的をもつ団体に寄付するものとする。

附 則

この会則は、昭和48年8月15日から施行する。

沖縄県民体育大会における浦添市選手団の成績

剣道競技（昭和40年～）

浦添市 昭和48年～

回	年	元号	市成績	回	年	元号	市成績
26	1973	昭和48	0.5	41	1989	平成元	8
27	1974	昭和49	不参加	42	1990	平成2	7
28	1975	昭和50	〃	43	1991	平成3	7
29	1976	昭和51	〃	44	1992	平成4	1
30	1977	昭和52	〃	45	1993	平成5	1
31	1978	昭和53	〃	46	1994	平成6	7
32	1979	昭和54	〃	47	1995	平成7	1
33	1980	昭和55	1	48	1996	平成8	6
34	1981	昭和56	1	49	1997	平成9	1
35	1982	昭和57	3	50	1998	平成10	3.5
36	1983	昭和58	1	51	1999	平成11	7
37	1984	昭和59	3.5	52	2000	平成12	3.5
38	1985	昭和60	6	53	2001	平成13	10
39	1986	昭和61	6	54	2002	平成14	3.5
40	1988	昭和63	3.5				

